

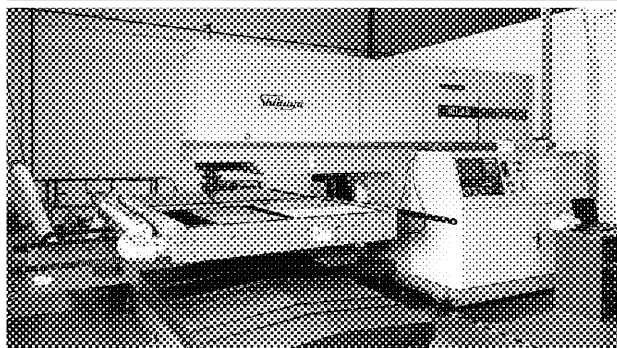
名古屋刃型、ベトナム開拓

高精度打ち抜き刃型製販

【名古屋】名古屋刃型（愛知県一宮市、樋者俊博社長）は、ベトナムで高精度打ち抜き刃型の製造販売に乗り出す。ハノイ近郊のドンバン工業団地に設けた工場の生産体制が整い、まず日系企業を中心に営業活動を本格化する。高機能フィルムなど薄膜材料を高精度に切り抜く刃型は自動車、精密機器などの先端分野で採用を増やしている。ベトナムを足がかりに海外市場の開拓に弾みを付ける。

職人技現地人材を養成

打ち抜き刃型は職人が特徴で、リチウムイオン電池（LIB）に使用する特殊フィルムなど、極薄素材に対応する技術力を強みとする。高い精度と耐久性を重視し、提供している。



ベトナムは刃型のユーザー業界となる自動車関連などの企業が多数立地しており、成長戦略の一環として市場開拓に取り組む。日本以外に生産拠点をもち、製品の供給体制を強固にする目的もある。当面は日系企業と連携し、現地人材を養成して技術者養成に取り組み、日本と同等レベルの刃型の製作、供給を目指し、差別化する。

ベトナムの拠点として2023年9月に現地法人「ナゴヤハガタハノイ」を資本金60万ドル（約9000万円）で設立。工場は床面積約500平方メートルのレンタル工場を活用する。主要設備の大型レーザー加工機、2次元画像計測機のほか、自動曲げ機、パネルソーなど一式をそろえた。今後5年間で総額2億円の投資を計画する。

業を中心に顧客開拓を進め、現地企業や韓国企業に順次広げていく考え。

ベトナムの拠点として2023年9月に現地法人「ナゴヤハガタハノイ」を資本金60万ドル（約9000万円）で設立。工場は床面積約500平方メートルのレンタル工場を活用する。主要設備の大型レーザー加工機、2次元画像計測機のほか、自動曲げ機、パネルソーなど一式をそろえた。今後5年間で総額2億円の投資を計画する。

ベトナムでも職人技を生かした刃型製作を實踐するため、現地人材を採用して技術者養成に取り組み、日本と同等レベルの刃型の製作、供給を目指し、差別化する。